

令和6年度 港湾運営会社による広島港コンテナターミナルの 管理運営状況について

1 要旨・目的

令和6年度の港湾運営会社による広島港コンテナターミナルの管理運営状況を報告する。

2 現状・背景

- 港湾施設を民間企業に長期的・一体的に貸し付けることで、民間の経営手法を生かした効率的な港湾運営及び戦略的なポートセールスを推進する港湾運営会社制度を、平成29年度から広島港において開始した。
- 令和7年度現在、当該港湾運営は一期（10年間）の9年目に入り、継続して定期コンテナ航路の維持・拡充と取扱貨物量の増加を図っている。

3 概要

(1) 実施主体

港湾運営会社	(株)ひろしま港湾管理センター	一期目	H29.4.1～R9.3.31（10年間）
施設名	広島港国際コンテナターミナル、海田コンテナターミナル		
所在地	国際拠点港湾広島港出島地区・海田地区		
施設・設備	岸壁、荷捌地、保管施設、臨港交通施設、荷役機械等		

(2) 事業内容

ア 令和6年度コンテナ貨物取扱数量（広島港出島地区・海田地区）

令和6年度の取扱数量は、出島地区で前年比23,632TEU減、海田地区で同21,210TEU増となり、広島港全体で271,477TEUとなった。（単位：TEU）

	令和6年度	令和5年度	対前年度比増減	増減の主な要因
出島地区	126,652	150,284	▲23,632	一般消費材・機械部品の輸入減少
海田地区	144,825	123,615	21,210	自動車関連貨物の輸出増加
合計	271,477	273,899	▲2,422	

イ 令和6年度決算（(株)ひろしま港湾管理センター コンテナカンパニー）

令和6年度は、自主事業の門型クレーンの使用料収入が増加したことに伴い、売上高は前年度比21,393千円増となった。

一方で修繕費等の増加により、売上原価は前年度比32,700千円増となり、営業利益は同7,267千円の減となった。

（単位：千円）

	年度	売上高A	売上原価B	売上総利益A-B	営業利益	経常利益	当期純利益
民営化事業	R6年度	475,529	458,911	16,618	▲12,182	▲12,182	▲12,235
	R5年度	470,384	458,108	12,276	▲20,031	▲21,866	▲20,554
	対前年度比増減	5,145	803	4,342	7,849	9,684	8,319
自主事業※	R6年度	297,505	242,928	54,577	32,914	23,190	23,190
	R5年度	281,257	211,031	70,226	48,030	37,568	31,519
	対前年度比増減	16,248	31,897	▲15,649	▲15,116	▲14,378	▲8,329
合計	R6年度	773,034	701,839	71,195	20,732	11,008	10,955
	R5年度	751,641	669,139	82,502	27,999	15,702	10,965
	対前年度比増減	21,393	32,700	▲11,307	▲7,267	▲4,694	▲10

※ 港湾運営会社が自社の資金調達により荷役機械等を独自に整備し、港運事業者等に共同利用させることで、コンテナターミナルにおける荷役作業の効率化等を図る事業。

4 令和6年度の実績

項 目		内 容
ポ ー ト セ ー ル ス	船社・荷主企業等への戦略的セールス	東南アジア直行航路の新規開設に向け、中四国地区の東南アジア向輸出入貨物について、広島港からの輸送手段を提案し、新規荷主の開拓・促進活動を実施した。
物 流 機 能 強 化	荷役機械の整備と効率化	門型クレーン4基の大型修繕投資を実施し、物流機能の強化を実施した。また今後の出島地区の機能強化を踏まえ、追加機器導入への検討協議、CNP（カーボンニュートラルポート）の推進も視野に入れた調査・検討を開始した。
	出島地区埠頭用地の活用	岸壁延伸に伴うコンテナヤード機能の拡張・見直し、コンテナ内部の温度を一定に保つリーファー設備の増設等の具体的な検討を広島県・港湾事業者と連携して実施した。
そ の 他	情報発信	広島港の視察、見学を実施し総勢351名を受け入れた。またHP、新聞社等の媒体を利用し、広島港のコンテナ取扱実績や将来構想等の情報発信を実施した。また、港湾業界の雇用促進のための諸活動にも継続協力した。

5 令和7年度の方針

項 目		内 容
ポ ー ト セ ー ル ス	船社・荷主企業等への戦略的セールス	東南アジア直行航路の新規開設に向け、中四国地区の東南アジア向輸出入貨物について、広島港からの輸送手段を提案し、新規荷主の開拓・促進活動を継続強化する。
物 流 機 能 強 化	荷役機械の整備と効率化	「広島港港湾脱炭素化推進計画」に基づくCNPの推進に向けて、他港の先進事例の調査を行うとともに、AIや遠隔操作技術等を活用した荷役作業の効率化について、検討を継続実施する。
	出島地区埠頭用地の活用	岸壁延伸に伴うコンテナヤード機能の拡張・見直し等の具体的な検討を広島県・港湾事業者と連携して継続実施する。
そ の 他	情報発信	視察・見学受け入れの促進やHP、海事業界機関紙等の媒体を利用した広報宣伝活動を継続する。